

博物館だより

No.58

平成23年2月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667



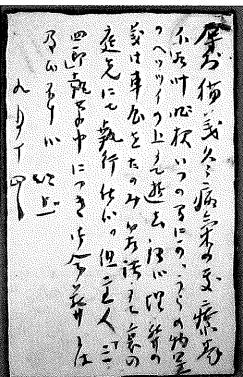
▶夏目漱石「菊花図」

当館では、来る2月22日(火)から、企画展「小宮豊隆展～漱石からの手紙～」を開催致します。小宮豊隆は、現在のみやこ町犀川久富の出身で、夏目漱石の門下として活躍し、またドイツ文学者、文芸評論家として多大な功績を遺した人物です(詳しくは、裏面の「みやこ歴史発見伝」をご覧ください)。

今回の企画展では、小宮豊隆氏のご遺族から借用した漱石の書簡や書画など約62点を展示します。ぜひご来館ください。

■開催期間

平成23年2月22日(火)
～3月21日(月)

▲小宮豊隆宛て夏目漱石書簡
(愛猫の死亡通知)

▲小宮豊隆(18歳の頃)

■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

常設展示の観覧料でご覧いただけます。

大人 200円
高校生以下 100円

■主な展示品

夏目漱石「菊花図」、同「書架図」、同「木屑錄」自筆原本、小宮豊隆宛て夏目漱石書簡7通、他

臨時休館のお知らせ

館内整理および燻蒸作業のため、2月7日(月)～2月11日(金)の間、博物館は臨時休館致します。

臨時休館中、博物館および文化財務に関するご質問について左記へお問い合わせください。

TEL 333-3114

お知らせ 2円の歴史講座

【漢詩講座】

2月15日(土)10時30分～

【古文書講座】

2月12日(土)10時00分～

【古典仮名講座】

2月19日(土)9時30分～

【金曜古文書講座】

2月25日(金)10時00分～

【みやこ字講座】

2月26日(土)10時00分～

ヒント すみずみに注意がとどく

ヒント 出くわす

ヒント すみずみに注意がとどく

①

ヒント すみずみに注意がとどく



▲先人顕彰映像ソフト撮影快調！写真は北海道八雲町立図書館「鶴田知也展示コーナー」の撮影風景(1/16)

◎答え

ヒント 旅費

⑤

ヒント そうなると決まっていること

④

ヒント すれちがう

ヒント すれちがう

③

ヒント すれちがう

②

ヒント すれちがう

《古文書解読コーナー》

ヒント すれちがう

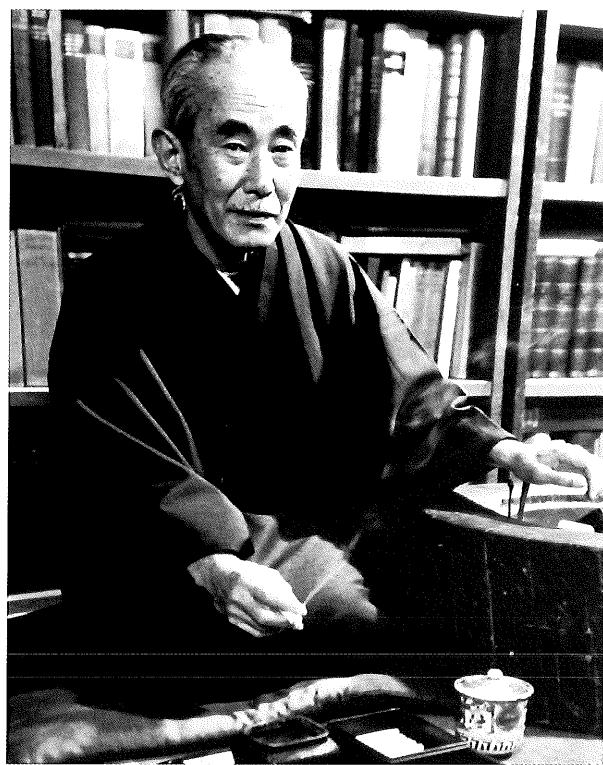
みやこの歴史発見伝 45

ドイツ文学者・漱石門下

こ みや とよ たか

小宮豊隆

再録版



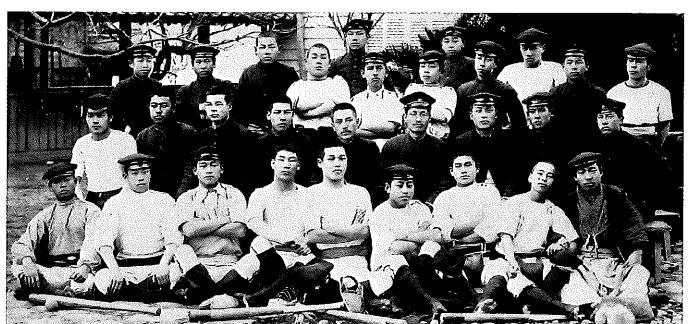
▲小宮豊隆

女手に育ちて
小宮豊隆は、明治一七年（一八八四）、仲津郡久富村（現みやこ町犀川久富）で生まれました。旧制中学校の教員であった父弥三郎の転勤により、幼年の頃は大和郡山（奈良県）で過ごしましたが、明治二四年に帰郷し、豊津尋常小学校（現豊津小学校）に通いました。それから間もない明治二七年に父が亡くなり、豊隆は祖母と母とに育てられました。

漱石との出会い
明治三五年（一九〇二）、福岡県立豊津中学校（現育徳館高校）を卒業した豊隆は、第一高等学校（現東京大学教養学部）へ進み、同三年には東京帝国大学独文科に入学しました。その際、従兄弟の犬塚武夫（ロンドンで漱石と同じ下宿に住んだ人物）の紹介で、当時東京帝国大学の英語講師であった夏目漱石と出会い、大学在学中の保証人となつてもらいました。豊隆は、既に豊津中学校時代から漱石の名を知っていましたが、これを機に、漱石と生涯にわたる師弟の関係を結ぶことになったのです。

豊隆の、漱石に対する敬愛の念は漱石自身にもたしなめられるくらい強く、周囲が彼を「漱石神社の神主」と呼ぶほどのものでした。漱石の没後（大正五年）豊隆の手による『漱石全集』の編集や、漱石文学の研究は、まさにその強い思いによるもの

後年、師である夏目漱石に激賞されたという彼の俳句「女手に育ちて星を祭りけり」は、そんな生い立ちにちなんで詠んだものです。



▲旧制豊津中学校 野外運動部卒業記念写真(明治35年)
3列目向かって右から2人目が小宮豊隆

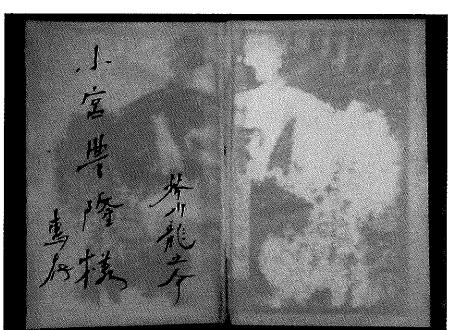


▲小宮豊隆文学碑(福岡県立育徳館高等学校)

他方で、豊隆の研究活動は専門の枠を越え、俳句や歌舞伎などにまで及びました。その多彩な研究活動と博識さを評し、周囲は「小宮先生は専門のドイツ文学講座の初代教授に就任。第二次大戦後は、東京音楽学校（現東京藝術大学）校長、学習院女子短期大学学長などを歴任しています。

多才な文筆活動
漱石門下としての一方で、大學を卒業した豊隆は、専門であるドイツ文学の研究者としての道を歩み、慶應大学、海軍大学、法政大学などで教鞭をとりました。また、大正一三年（一九二四）には、東北帝國大学（現東北大）でドイツ文学講座の初代教授に就任。第二次大戦後は、東京音楽学校（現東京藝術大学）校長、学習院女子短期大学学長などを歴任しています。

小宮豊隆は、昭和四一年（一九六六）に東京都杉並区の自宅で亡くなりました（享年八十二歳）。それから三十一年後の平成八年（一九九六）、小宮豊隆旧蔵の図書数千冊が、小宮家から旧豊津町へ寄贈されました。その中には森鷗外や芥川龍之介、斎藤茂吉ら著名な作家の署名入り初版本が数多く含まれるなど、小宮豊隆の交友関係や研究活動を知るうえで貴重な資料となっています。署名入り以外の図書は、現在みやこ町中央図書館で一部公開されています。ぜひ一度、ご覧になってみてください。



▲芥川龍之介『羅生門』署名入り初版本
(みやこ町所蔵・小宮家寄贈)

でした。生前の漱石もまた、門下中で特に豊隆を可愛がつたといいます（ちなみに、小説『三四郎』の主人公小川三四郎は、その住所が「福岡県京都郡」であることから、小宮豊隆がモデルと言われる）。